

ゴムの木の種類は？

弾性ゴムやゴム類似物をラテックス(ゴムの樹脂液のこと)中に含む植物は、全世界で400種以上あるといわれています。巨大木から低木、つる草、ロシアの多年草まで広い範囲にわたっています。野生ゴム産地は、高温多湿の地が適していますが、乾燥地帯に適するものもあり、また温帯から亜寒帯に繁殖するものもあります。その中で特にト

ウダイグサ科に属するパラゴムノキ (*Hevea brasiliensis*) が最も重要で、現在世界の弾性ゴムの天然産出量のほとんどがこの種です。天然ゴムといえばパラゴムのさし、他の植物から採取されるゴスを野生ゴムと呼んで区別しています。次に代表的なものを紹介します。

\* 「暮らしのなかのゴムの本」(三ツ星ベルト(株))より転載しました。

●マニホットゴムノキ→

*Manihot glaziovilii*  
トウダイグサ科  
ブラジル原産の低木。この木から採集したゴムは、セアラゴムと呼ばれ、パラゴムにつぐ良質のもの。単位面積当りの収量が少ないので栽培されていない。



●パナゴムノキ→

*Castilloa elastica* クワ科  
中央アメリカ原産の高木。カウチャラバーとも呼ばれる。切り付け後の樹皮の回復がおそく、年に4~5回しか切りつけできない。連続して切りつけると枯死する。

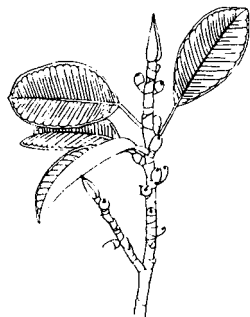


↑●パラゴムノキ

*Hevea brasiliensis* トウダイグサ科  
アマゾン地方が原産。アマゾン河口のパラ港から輸出されたのでパラゴムの名がついた。1876年にセイロン島で栽培に成功。天然ゴムという、パラゴムをさすようになった。

フンツミアエラスチカ

*Funtumia elastica*  
キョウチクトウ科  
西アフリカ熱帯地方に自生する高木。パラゴムノキが栽培される以前、東南アジアでかなり広い範囲に栽培された。フンツミア・ラテックスは安定性がよく、保存剤を加えなくとも、かなりの期間貯蔵できる。フンツミアゴムはパラゴムより柔らかく、伸びると不透明になるので、両者を区別することができる。

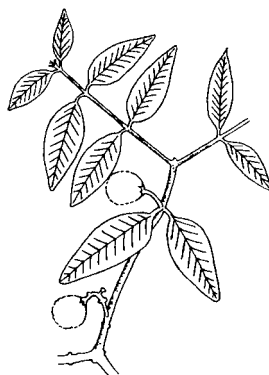


←●インドゴムノキ

*Ficus elastica* クワ科  
マレーシア、インドネシア地方が原産。高木になる。樹幹が複雑なかたちをしているため、切りつけが難しく、収量も少ない。いまでは、観葉植物として栽培されている。

グアユールゴムノキ

*Parthenium argentatum* キク科  
北メキシコに野生する1生年のかん木。乳管がなく、ゴムは幹、葉、根のあらゆる部分に含まれている。木を切り倒し、乾燥して粉碎し、水とともにボールミルにかけて煮沸すると、ゴムが表面に浮かんでくる。グアユールゴムは樹脂含有量が高く、粘着性で商業的価値が低い。



←●ザンジバルツルゴム

*Landolphia kirkii*  
キョウチクトウ科  
アフリカ原産のつる木。かなり大きくなる。切りつけ法によるか、木を切り倒して樹皮をはぎとり、つきくだいてゴムをとる。同じ属の *L. owariensis*, *L. heudelotti*, *L. klainei*, *L. ugandensis* などからもゴムがとれる。

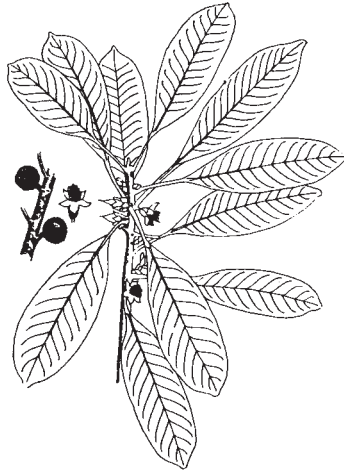
## ロシアタンポポ Taraxacum kok-saghyz キク科

ソ連と中国の境に近いチャンシャン山脈が原産。第2次大戦中、天然ゴムの資源としてソ連国内で栽培されたことがある。高収量の品種では、根に8~10%のゴムが含まれている。ロシアタンポポの栽培には良好な農地、大きい労働力が必要なことから、1945年ころから栽培されていないようである。

## ●ガタパーチャノキ→

palaguium gatta アカテツ科

マレーシア原産の常緑高木。この木から採取されるラテックスがガタパーチャ。ガタパーチャは空気にふれると凝固するので、切りつけ法で採集できない。木を枯らさない程度に葉や枝採集し、ガタパーチャを抽出する。ガタパーチャは空気中では酸化しやすいが、水中では無限の寿命をもっているため、海底電線用の絶縁体として重要であった。しかし、現在は合成樹脂に置きかわっている。ゴルフボールの外皮が主な用途。



## ↑●ウルセオラ

Urceola elastica キョウチクトウ科  
マレーシア、スマトラ地方のつる木

## バラタ Mimusops balata アカテツ科

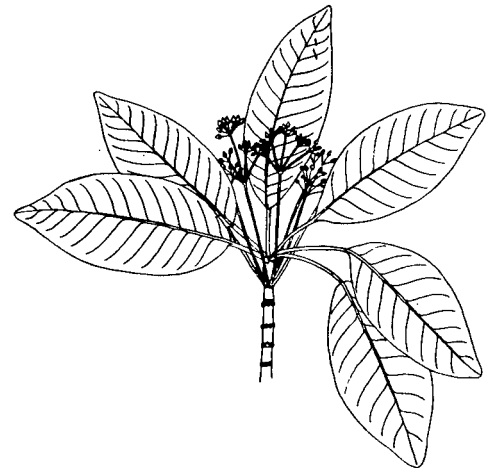
南アメリカが原産。この木から採取されるのがバラタで、赤かつ色の熱可塑性物質である。耐水性を利用して、ガタパーチャ同様ゴルフボールの外皮が主な用途。そのほか、バラタベルトにも用いられる。



## ●クワガタノキ↓

Dyera costulata キョウチクトウ科

マレーシアが原産。ラテックスはジェルトンと呼ばれ、ガタパーチャに似ている。チューインガムの基質に、ベルトのプライ接着剤、ばんそうこうなどに使用される。



## ●サボジラ↑

Achras zapota アカテツ科

中央アメリカが原産。樹皮を傷つけて採取した乳液がチクル。チューインガムの原料になる。農園で栽培できるような近縁の植物もなく、チューインガムの基質は合成樹脂にかわりつつある。

## トラガントゴムノキ

Astragalus gummifer マメ科

ギリシャ、小アジアに野生する低木。トラガントゴムと呼ばれている。用途はアラビアゴムとほぼ同じ。



## ←●アラビアゴムノキ

Accacia senegal マメ科

アフリカ西海岸原産の低木。木の皮から自然にしみ出たかたまったのがアラビアゴム。ゴム(正しくは弾性ゴム)が炭水化物であるのたいし、アラビアゴムは炭水化物からなっている。水に溶けるので、薬の丸薬や錠剤をかためたり、切手ののり、各種インキなどに用いられている。